東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１２年5月４

理想的なムスリムの特質

親愛なるムスリムの皆様

崇高なるアッラーは人間を無駄に創造されたのではなく、知性と意識を与えられ、信仰とイバーダへの義務を負わせられました。そしてこの世界で彼に試練を与えられるのです。実際アッラーは「人間は、（目的もなく）その儘で放任されると思うのか。」（復活章３６）と仰せられました。クルアーンでは多くの箇所で人間に望まれる態度について触れられ、どのような生き方をすべきなのかという点で命令や禁止事項が示され、奨励がなされています。

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンではムスリムをはじめとして全ての人が持つべき理想的な特質について注意をひき、次のように述べています。「慈悲深き御方のしもべたちは、謙虚に地上を歩く者、また無知の徒（多神教徒）が話しかけても、「平安あれ。」と（挨拶して）言う者である。』（識別章６３）「また主の御前にサジダ（または）起立して、夜を過す者。」（識別章６４）

これらの章句は、社会において安定や平和を維持するための忠言を含んでいます。精神的成熟さを身に着けるため、しもべの主に対する義務が礼拝でサジダやクヤームを行うことによってはたしていることを説いています。また別の章句では「また（財貨を）使う際に浪費しない者、また吝嗇でもなく、よくその中間を保つ者。」と命じられ、無駄なくお金を用いること、浪費しないことなどといった基本的徳が示されています。

親愛なるムスリムの皆様。また他の章句では、「アッラーとならべて、外のどんな神にも祈らない者、正当な理由がない限り、アッラーが禁じられた殺生を犯すことなく、また姦婬しない者である。だが凡そそんなことをする者は、懲罰される。復活の日には懲罰は（罪に応じ）倍加され、その（地獄で）屈辱の中に永遠に住むであろう。悔悟して信仰し、善行に励む者は別である。アッラーはこれらの者の、いろいろな非行を変えて善行にされる。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。悔悟して善行に勤しむ者は、本気でアッラーに悔いている者である。嘘の証言をしない者、また無駄話をしている側を通る時も自重して通り過ぎる者。また話題が主の印に及べば聾唖者か盲人であるかのように、戯らに知らないふりをしない者。そして、「主よ、心の慰めとなる妻と子孫をわたしたちに与え、主を畏れる者の模範にして下さい。」と（祈って）言う者。これらの者は、その耐え忍んだことにより高い階位の住まいをもって（楽園の中に）報われよう。またそこで歓迎と挨拶の言葉をもって迎えられよう。そこに永遠に住むのである。何とよい住まい、何とよい休み所であることよ。」（識別章６８－７６）と仰せられています。これらの章句においては、信仰を持ち、善行を行う人々が悪を善へと変えるであろうことが示されています。悔悟を行い、役に立つ行いをした人が清められた人々となることが説かれているのです。